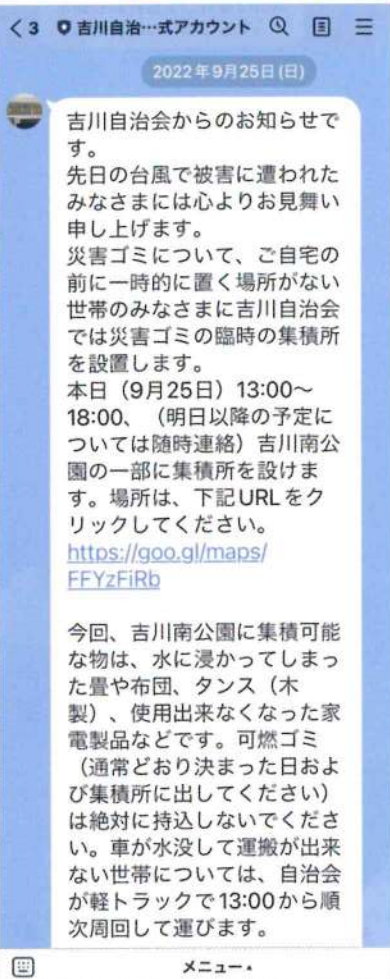


吉川自治会は、令和3年からLINE公式アカウントを始めしています。令和4年台風15号の際には、地区のおよそ半分以上が浸水被害に遭い、ほぼ全世帯が断水しました。その時に、このLINE公式アカウントによる情報発信が、大いに役立ったようです。

給水所や災害ごみの集積所、独自の回収についてなど、吉川住民が必要とする情報をまめに発信

吉川自治会では台風上陸前から、早めの避難を促す注意喚起を行いました。そして、被災後には、断水に困っている住民に向けて、様々な給水情報を伝えました。市の給水車の場所や、自治会館の水の提供、県の工業用水の提供など、些細な地域限定の情報も変化や、情報が入るたびにこまめに発信し続けました。

少しずつ落ち着きを取り戻すと、今度は災害ごみの集積場所や分別方法についても、発信します。災害ごみを集積所に持ち込めない住民がいることがわかると、被災していない住民が軽トラックで回収にまわることを決め、収集に関する情報も、都度伝えました。



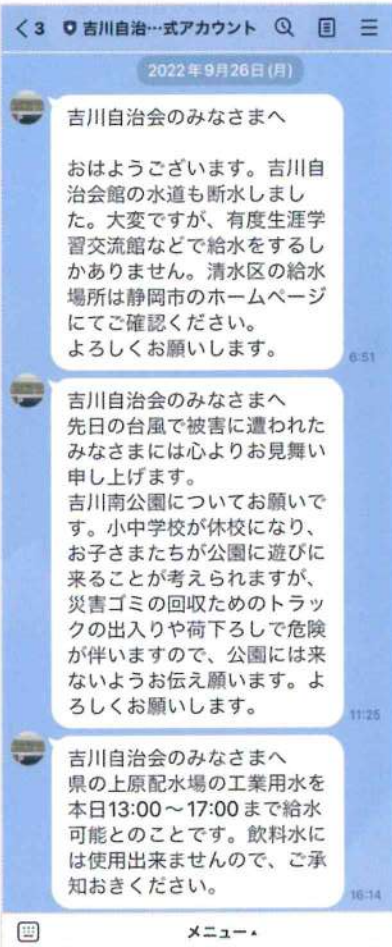
地域の情報が手に入ること

大規模災害時には、テレビやインターネットで、市や区の情報は入手できますが、近隣の情報は知ることができず、うわさや口コミに頼るのが現状でした。そして、インターネットや伝聞では、真偽が定かではない情報が流れることがあります。

自治会などがLINE公式アカウントを活用し、情報発信を行うと、住民は自分が生活する徒歩圏内の正しい情報を確実に、早く入手することが可能になり、災害時は、暮らしの安全安心につながります。吉川自治会はLINE公式アカウントを使って、災害ごみの分別のお願いも何度となく行いました。奥山靖司自治会長は「被災された方に、ごみの分別までお願いするのは、非常に心苦しかった。」と言います。しかし、役員などの協力もあり、集まった災害ごみは写真のように整然と分別されました。

結果、公園いっぱいだった何十世帯もの災害ごみの撤去は、たった2日で終了しました。これには、支援に駆けつけた熊本県の職員も、大変驚いていたそうです。

吉川自治会のLINE公式アカウントの登録者は、台風前は211名でしたが、台風後は350名に増えたそうです。住民のニーズを的確に把握し、情報を発信することで、早期復興も可能になることがわかる事例でした。



畳、家電、家具と分別され、公園の決められた場所に積まれています。「局所的な被害だったからこそできた。」と奥山会長は言います。他の地区では、2軒の災害ごみの回収に、2日かかったところもあるようです。

「しずおか自治会マガジン」令和5年度号付録

静岡市内の自治会・町内会活動の、好事例や楽しい取組、頑張っている方のお話など、多種多様な自治会・町内会の情報提供をお待ちしております。

【発行日】令和5年12月
 【発行元】静岡市 市民局 市民自治推進課
 〒420-8602 静岡市葵区追手町5番1号
 TEL 054-221-1265
 【企画・編集・デザイン】里山くらしLABO

「しずおか自治会マガジン」は右記のQRコードからご覧いただけます。ダウンロードも可能です。皆さまの地域活動にお役立てください。

